

# 子どもの発達障害についてお話します。



## ③ 発達障害とは

発達障害には知的障害、学習障害、注意欠如多動性障害、自閉症スベクトラムなどがあります。原因は中枢神経系の機能障害とされ、乳幼児期に症状が出現します。進行性ではなく、発達や介入により変化するため、早期発見・早期治療が大切になります。

## ④ 知的障害

知能検査でIQ70以下の場合を知的障害とし、程度によって軽度、中等度、重度、最重度に分類されます。言葉の遅れとして気づかれることが多く、運動発達の遅れ、集団でのコミュニケーション不良、指示理解が不良、作業不振などがみられます。教育と訓練が必要ですが、行動障害に対しては薬物療法も効果があります。

## ⑤ 学習障害

知的障害はなく、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する領域のいずれかに著しい困難があり、学業成績、日常生活が障害されます。読字障害、

算数障害、書字表出障害などがあり、個々の症例に応じた教育、対応を行っていきます。

## ⑥ 注意欠如多動性障害

多動性、衝動性、不注意が主な症状で、幼児期早期に発症し、一部は思春期、成人になっても続きます。自己肯定感を育むために、ほめることを基調にしたペアレントトレーニングや環境調整を実施し、学童以上では集中力、多動、衝動性の改善のために、薬物療法を行います。

## ⑦ 自閉症スペクトラム

社会性、コミュニケーション、想像力の障害が主な症状で、言葉の遅れ、視線が合わない、感覚過敏、体の独特な決まった動き、ひとり遊びなどがみられます。言葉の遅れや知的障害がみられないものはアスペルガー症候群とされています。得手を伸ばし不得手を得手で補う、視覚的に情報を与える、ルーティン化を上手に使う、多動や衝動性、うつ症状に対する薬物療法など

で対処します。

## ⑧ おわりに

発達障害は本人のわがままや親の育て方の失敗ではなく、脳の成熟のアンバランスによるものです。早い時期に発達障害を発見し、個々の子どもに合った対応をしていくことにより、社会的な不適応を減らし、二次的な合併症を予防することができます。そのためには健診をしつかり受けること、集団生活での適応状態を確認することが肝要です。言葉の遅れ、コミュニケーション障害、指示が入りにくい、落ち着きがない、などの症状があれば、早めにかかりつけ医に相談して下さい。子どもに向き合うとき、他の子どもと比較せず、わが子の良いところ、できるようになったことを見つけて、ほめて伸ばしてあげることが大切です。子どもへの自己表現や自尊心を尊重し、将来の自立を目標にして、わが子の成長を見守っていきましょう。



野村 真二院長

平成22年9月に小児科開業、平成23年4月に病児保育室を開設。未熟児新生児医療の経験を生かして、心をこめて診療、子育て支援を行っています。



とこころ・チャイルド・クリニック  
Cocoro child clinic  
4階の病児保育室ちゅんちゅんもご利用下さい

お問い合わせはtel.082-848-6619まで



●診療日・時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
14:00~18:00	○	○	○	○	○	△

14:00~15:00に乳児健診、予防接種を行っています。  
△17:00まで 【休診日】日曜・祝日



DATA 広島市安佐南区伴南  
1丁目5-18-8-301  
西風新都ゆめビル  
tel.082-849-5519

ACCESS 広島バス「とこころ産業団地」  
「とこころ西公園」行き  
「とこころ入口」下車

